



祥雲閣

<庭園の山法師>

たより vol.59

祥雲閣は、日本の伝統文化の伝承と普及のために利用できる施設です。茶道をはじめ、箏・謡・舞踊などの発表会やお稽古にご利用いただけます。

和の空間で四季折々の庭園を眺めながら500円で気軽にお茶を味わえます。(10時～16時まで)

日曜日から金曜日は抹茶
土曜日は煎茶をお出ししています。

入館・見学は無料です。



季節によって変わる茶道具

風炉と炉



茶の湯では半年ごとに茶室のしつらえが変わります。五月から十月を「風炉（ふろ）」の季節、十一月から翌年四月を「炉（ろ）」の季節としています。

「風炉」は夏に使われる「炉」のことで畳の上に炉を置き、釜を掛けてお茶を点てるためのお湯を沸かします。

暖かい季節に茶室の中が少しでも涼しくなるように、客から遠い位置に風炉をおきます。亭主（招く側）は相手を思いやり、場や道具を整えて客をもてなします。



「炉」は畳の一部を切って床下に備え付けた一尺四寸（約42cm）四方の囲炉裏のことで、炭火を入れて釜を掛けてお湯を沸かします。

室町時代以前は、季節に関係なく風炉を使っていましたが、千利休によって位置や寸法が完成され、現在の形になりました。

※諸説あります。

お菓子の いただき方



茶席に入ってお茶やお菓子をいただく時に作法を知っておくと
お菓子やお茶をよりおいしく味わう事ができます。

- ① 次の客に「お先に」とあいさつをする。
- ② 菓子器（お菓子を入れる器）を両手でおしいただく。
(軽く持ち上げる)
- ③ 菓子をひとつ取って、懐紙（かいし）にのせる。
- ④ 懐紙ごと手にのせて菓子をいただく。

抹茶をいただく前にお菓子をいただきます。抹茶の苦味が
緩和され、抹茶の刺激から胃を守るとも言われます。

お菓子は主菓子（おもがし 季節の生菓子）、干菓子（ひがし 乾いたお菓子）があり、主菓子は濃茶、干菓子は薄茶に
用いられます。

茶会などでは薄茶に主菓子が出される事もあります。

カレンダー

※月曜休館 〇 は休館日（変更する場合もあります）

5月							6月							7月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	④							①		1	2	3	4	5	⑥
5	6	7	8	9	10	⑪	2	3	4	5	6	7	⑧	7	8	9	10	11	12	⑬
12	13	14	15	16	17	⑱	9	10	11	12	13	14	⑮	14	15	16	17	18	19	⑳
19	20	21	22	23	24	㉔	16	17	18	19	20	21	㉒	21	22	23	24	25	26	㉗
26	27	28	29	30	31		23	24	25	26	27	28	㉙	28	29	30	31			
							30													

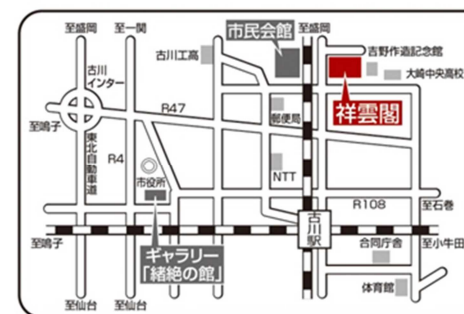
所在地 大崎市古川福沼一丁目2番2号

電 話 0229-24-3385

交 通 JR 古川駅から徒歩約 20 分
車 東北自動車道古川IC より
約 10 分

駐車場 有

休館日 月曜（月曜が祝日の場合は翌日）



「茶摘み」の歌で知られる八十八夜は立春から
数えて八十八日目の日です。歌詞の通り新茶の
茶摘みが盛んな時期です。

新茶には旨味成分が多く含まれ、格別な味わいを楽しむ事
ができ、八十八夜の日摘んだお茶を飲むと一年間健康に過
ごせるとも言われるそうです。

今年の八十八夜は5月1日、立夏は5月5日です。暦の上
では夏を迎え、次の季節の準備をする吉日とも言われます。

※諸説あります。



大 崎 市 祥 雲 閣

令和6年 5月 15日発行

〒989-6105

宮城県大崎市古川福沼一丁目2番2号

TEL・FAX 0229-24-3385